

◆園全体◆

- ◎令和4年度も新型コロナウイルス感染症に対して、毎日感染症対策に努めた。345歳児の行事では、保護者の人数制限をし、1クラス単位で行ったことで、大きなクラスターにならず園生活を送ることができた。
- ◎012歳児の職員数は規定数より常時一人多く配置し、かつ園全体のフリー職員も複数人いることで、感染症等で急な休みであっても問題なく安全に保育を進めることができた。
- ◎前年度末に導入した保護者専用アプリで、全クラスが毎日こども達の写真やドキュメンテーション配信を行った。ドキュメンテーションから、日々の保育内容を保護者が知ること、送迎時の会話が豊かになり、保護者の方も保育に参加して下さる姿も見られた(うどん作りで講師として招いたり、収穫した野菜で自宅での料理の写真を持ってきてくれたり等)
- ◎012歳児クラスの行事では、懇談は通常通り行えたが、参観はどうしても密になるため行うことができなかった。年に4回、子ども達の室内外で遊ぶ姿・歌やゲーム・給食・お昼寝の姿などの日常を動画で配信し、園生活の様子を伝えることで保護者の方より喜びの声を聞くことができた。
- ◎近隣には八田荘小学校と平岡小学校がある。以前から八田荘小学校と交流をしており、今年度は初めて平岡小学校も交流をすることができた。子ども達が小学校へのイメージが持てるよう今後も行いたい。
- ◎SDGsの取組みとして、缶や紙のリサイクル、給食の生ごみをコンポストで有機肥料を作り、堆肥循環に取り組んだ。給食はこども達が食べられる量を摂取しているため、残飯の出るクラスと、足りないクラスがあった。クラス間で連絡を取り合っ分けることで、残飯をととても減らすことができた。

◆各クラス◆

●年間目標 もも組(0歳児)

- ・一人ひとりの生活的リズム(食事・睡眠・排泄)を尊重し、特定の保育者との関りを通して信頼関係を築き、安心して生活できるようになる。
- ・身の回りの物に興味を持って関わり、運動機能を獲得するとともに探索活動を存分に楽しむ。
- 育児担当制を取り入れている為、保育者と子どもの愛着、信頼関係は十分に形成できた。担任全員で子どもの様子を伝える等連携をとりながら、担当以外の子どもとの関係も得ることができ、個々のリズムを把握、理解して過ごすことができた。
- 子どもの発達過程を職員で話し、伝え合い、子ども自らやってみたいと思える内容の遊びを設定し、運動遊びを継続してきた。運動遊びに消極的な園児も動けるようになったことで楽しんで遊べるようになった。繰り返し遊ぶ中で月齢に応じた運動機能の発達が見られた。

●年間目標 ばら1組(1歳児)

- ・「自分でしたい」という気持ちを受け止めてもらい、「できた」という嬉しさや満足感を積み重ね、簡単な身のまわりのことをしようとする。
- ・してほしいことや気持ちなどを、身振り仕草、表情、簡単な言葉で伝えようとする。
- 前期は、保育者に援助してもらいながら着脱や食事などをしていたが、後期になるにつれ援助がなくても、靴下や衣類を自分で出来るようになった。個人差はあるが「自分で」という意欲が見られた時は見守り、できない時には子どもに聞きながら援助をするようにした。出来た時には、言葉にして褒める事で次の意欲にも繋がった。
- 最初は指差しや表情等で保育者にしてほしいことや気持ちを伝えていたが、後半では自分がしたいこ

とを二語文や三語文以上の言葉にして伝えられるようになった。玩具の取り合いでは保育者が仲介することにより、だんだんと「貸して」「どうぞ」と言葉のやり取りができる姿もすこしずつ見られるようになった。

●年間目標 ばら2組（1歳児）

- ・簡単な身の回りのことを保育者に見守られながら少しずつ自分でやってみようとする気持ちが育つ。
 - ・特定の保育者との応答的な関わりにより、自分の意思や欲求を身振りや簡単な言葉で伝えようとする。
- 身の回りの事（着脱・食事・排泄等）が自分で出来るようになり、励ましや見守りにより少しずつ意欲が見られ、出来たことを保育者と一緒に喜ぶ姿が見られた。
- 担当の保育者と信頼関係を気づき、身振りや簡単な言葉で自己主張や意思を伝えられる姿が見られるようになった。成長と共に友達同士のトラブルも増え、保育者の仲立ちにより少しずつではあるが「かして」「どうぞ」のやりとりが見られた。

●年間目標 ひまわり1組（2歳児）

- ・一人ひとりの興味、関心にあったあそびやおもちゃを充実させ、さまざまな経験をする
 - ・保育者に見守られながら身の回りのことを行い、出来たことを認めてもらうことで自信へと繋がるようにする
- 育児担当制で個々の成長を理解し、1人ひとりのあそびや発達に応じたおもちゃを用意することができた。また、1人あそび→小さな集団あそび→簡単なルールのある遊びへと一年をかけて繰り返し遊ぶことで友だちと遊ぶ楽しさを感じることができた。また環境構成ではその都度クラス間で話し合い、子どもたちの遊びの姿からアイデアを出し合い保育に生かすことができた。
- 担当保育者がひとりひとりを把握し、その時の子どもの気持ちを汲み取り丁寧に寄り添うことで、身の回りのことも無理なく進められた。お友だちが褒められることで自分も同じように真似をし、頑張ってみようという姿も見られ、友だち同士が良い関係性が見られた。

●年間目標 ひまわり2組（2歳児）

- ・基本的な生活習慣を身に付け生活リズムを整える。
- 自分で出来るようになった喜びを共感し自信をつけるようにする。
- ・自分の好きな遊びを充実させ、身体・指先など様々な力をつけていく。
- 身の回りのことを積極的に取り組み、繰り返し行うことで自信がついてきた。また、個人差はあるがトイレで排泄できることも増えた。
- 個々の遊びを充実できるようにコーナーの配置を考え、保育者も仲介しながら個々と関わることで楽しめるようになり模倣あそびも多くみられるようになった。また、塗り絵あそびからクレパスの使い方も自然に身につき、その他様々な机上遊びに広がった。
- リトミック遊びでは、保育者のまねをして楽しんでいたが、回数を重ねるうちに曲を聴いて全身を使って楽しく表現出来るようになった。

●年間目標 うめ1組（3歳児）

- ・新しい環境に慣れ、自分でしようとする気持ちを発揮しながら、自分に自信を持てるようになる。
 - ・友だちと一緒に遊んだり、活動することを喜び、関わりを深めるにつれて優しさや思いやりの気持ちを持てるようになる。
- 朝夕の用意に苦戦することもあったが、その時の子どもの気持ちに寄り添い一緒にすることを大切にすることで、自然と自分たちで出来るようになった。

→行事を通して自分に自信が付き、得意な事をのびのびと発表し、お友だちと一緒にやり遂げたことで人間関係も広がった。しかし遊びのルール決めでぶつかり合う事が増え、経験の中から思いやりの気持ちをもてるようになるという目標は次年度も引き続き行いたい。

●年間目標 うめ2組（3歳児）

・生活の見通しを持ち、自分で出来たことの喜びを感じながら、生活習慣を身に付ける
・自分の好きな遊びを見つけ、遊びを通して友だちと関わりを深めながら、工夫や協力することを楽しむ

→低月齢クラスということもあり身の回りの事等に援助が必要な事が多く、3学期頃までは職員と一緒に着脱等を行い、方法を伝えていった。一人ひとりと確認しながら進めたことで、服をたたむこと等いろいろな事がきちんと身につけていることを後半には実感することも多かった。

職員の数も多く、様々な面で職員と子どもたちがじっくり関わり、その中で一人ひとりの成長を理解することが出来たので、自信を持ち次に取り組もうとする姿を沢山感じる事が出来た。

→職員が遊びの中に入りその中で玩具の使い方を知らせたり、一緒に遊びを広げたり、子どもが何かに興味を持っているかを観察することを心がけた。

成長につれ少しずつ遊びの中に入る時間を短くし、子ども同士で遊ぶ姿を見守った。やりたい遊びを職員に伝えることも出来るようになり、後半は子ども同士で遊びを進めることが出来ていた。

廃材のコーナーを作ることで、ごっこ遊びに広がりを持つことが出来、廃材を創意工夫しながら足りない物を製作しようとする姿が見られた。苦手な遊びも得意なお友だちといっしょに遊ぶことで少しずつ楽しさが感じられるように配慮しながら保育を進めた。

●年間目標 すみれ1組（4歳児）

・友だちと一緒に遊んだり活動することを喜び、関係が深まるにつれて、それぞれの良い所や得意なことに気付き、一人ひとりがかけがえのない存在であることを知る。

・日々の活動や遊びの中で、失敗や成功など様々な経験を通して、自分の好きなことを見つけ、自信を持って意欲的に過ごせるようにする。

→友だちと遊ぶことが楽しめるようなルールのある遊びを提供し、保育教諭も一緒に遊びに参加して楽しむことで、次第に子ども達だけでルールのある遊びを楽しめるようになっていく。

→素敵な言動、頑張っていること等、その子を褒めるだけでなく、皆の前でも伝えるように心掛けたことで、自信に繋がり、友だちの良いところにも気付くことができた。また最近では、子ども同士で友だちの良い所に気付き、伝える姿が見られる。

→大きな行事に参加する中で、クラス全員で心一つにする大切さを伝え続けたことで、一人ひとりが大切な存在であることを感じている様子が見られた。

→遊びの中で勝ち負けを経験し、自分の得意不得意に気づき、悔しい思いから自ら何度も挑戦し習得する姿勢が見られ、友だちの姿を見て刺激し合う姿もあった。遊びの中で走るのが速い、LaQが得意、文字が読める、恐竜の種類を覚えている等、一人一人が自信を持って取り組めることを見つけれられた。

●年間目標 すみれ2組（4歳児）

・友だちと一緒に遊んだり活動することを喜び、関係が深まるにつれて、それぞれの良いところや得意なことに気付き、一人ひとりがかけがえのない存在であることを知る。

・日々の活動や遊びの中で、失敗や成功など様々な経験を通して、自分の好きなことを見つけ、自信を持って意欲的に過ごせるようにする。

→音楽発表会前に自己紹介カードを作った時に、友達の良いところをみんなで考えた。しっかりと一人一人に合った意見が沢山出て、友だちの良い所や得意な事を見つけれられていると感じた。

→気の合う特定の友だちが出来て、仲良くする姿も見られる反面、気の合わない友だちとは距離を置いて

接する姿も見られた。年長に向け、子どもたちが心を一つに活動していく場面も今後は取り組んでいきたい。

→行事や日々の活動を通して、自分の得意なことを見つけ、気に入った活動はどんどんと練習を進め、やっていく姿が見られた。特に楽器や鍵盤ハーモニカをできたことが嬉しく、出来るようになってからは、自ら繰り返し演奏する姿があった。

●年間目標 たけ1組（5歳児）

・友だちと一緒に遊びや生活をする中で自分に自信を持ち、友だちの良さに気づきながら、皆で達成感や充実感を味わう。

・様々な遊びや生活の見通しを持って行動する。個々の興味関心を広げ、課題を見つけ、主体的に取り組もうとする意欲が持てるようにする。

→早寝早起きや自分の荷物は自分で持つ等各自で目標を立て、出来たら判子を押すことにより生活習慣が身についてきた。

保育者が個々の好きな遊びを観察しながら、何が今必要かなど見極めて玩具や廃材、絵本などを出すようにしたが、ままごと遊びの用品をなかなか見直すことができなかつたのは反省である。今年ほどの行事においても、主体性をよく引き出すことが出来、且つ日々の遊びがどれだけ充実しているかが大切だと感じた。

→毎日の活動を子ども達で決めたことで、遊び込めなかつた子も集中して遊べるようになった。また、遊びの中で話し合う姿も多く見られ、遊びが発展していった。作ったものや、できるようになった事等を皆の前で発表し合うことで、友達の得意なことや良い所に気づき、個性があることを知ったことで深く関われるようになった。また、月の製作などもレベルに合わせていくつか準備し、自分で選べるようにしたことで出来た嬉しさや達成感に繋げることができた。

●年間目標 たけ2組（5歳児）

・友だちと一緒に遊びや生活をする中で自分に自信を持ち、友だちの良さに気づきながら、皆で達成感や充実感を味わう。

・様々な遊びや生活の見通しを持って行動し、個々の興味関心を広げ課題を見つけて、主体的に取り組もうとする意欲が持てるようにする。

→友だちと一緒に遊ぶ中で、小さなトラブルが見られたが、少しずつ自分たちで解決方法を知り、保育者が入らなくても解決できるようになった。また友だちの得意不得意を知ることで、友だちが苦手なことに成功し克服できた時には自分のことのように喜び、行事を通しクラス全体で気持ちが一つになった事で達成感や充実感を味わえた様に感じる。クラスのスローガンを旗にして子どもたちと一緒に考え、作り上げたのも良かった。

→好きな遊びを見つけ、主体的に遊んでいる子が多くいたが、発達差が大きいこともありなかなか遊び込めない子に対してもう少し丁寧寄り添うことができれば良かった。